

第四十五回 新春川柳大会

謝 選（一般・会員） 松山公民館長 選

誰が食う大間産だよ日本一
 しくじったまたも一からやり直し
 小春日の桜に誘われ千鳥足
 桜草妻が育てて春を呼ぶ
 初詣で長蛇の列に期切顔
 いじめ合う教師の躰 誰がする
 お正月指折りかぞえ孫を待つ
 一杯の至福のコップに感謝する
 無人駅一輪挿しに梅薫る
 一筋の濃紺語る分厚い手
 マズ一步孫が背負うは一升餅
 もう一度チェックにまる古日記
 桜咲き早くこいこい春だより
 乱れ散る桜吹雪は子もうれし
 満開の桜の下にランドセル
 大トリの桜吹雪に染まる唄
 お歳暮が化粧直して年賀来る
 庭の石漬物石に変わり果て
 愛込めてきざむレシビが踊り出す

信義 達雄 善之 秀夫 豊章 洋一 トヨ子 孝 吉郎 綾女 実 旭 清美 照美 和市 堤子 月歩 てい子 祥子

謝 選（会員） 志田川柳会会長 選

運命の危機を感じる温暖化
 諍いも香る朝茶が消してゆく
 ききめなし育児書曰く「早くして」
 顔馴じみ健康点呼みんなこ家
 杭一本冬を乗り切る立役者
 今日の酒少しショッパイおたち酒
 人情の種は綺麗な花咲かす
 懐メロを聞けば若さが胸に染む
 笑い種あつめて今日も川柳会
 愛込めてきざむレシビが踊り出す
 今年も白鳥のれつ美しい
 歳暮が化粧直して年賀来る

和市 旭 照美 堤子 てい子 実 綾女 孝 吉郎 祥子 清美 月歩



会員互選の部

互選

五客

佐藤清美 選

客 一折り二折り紙鶴飛ばす退院日

桜漬け孫の祝いに花を添え

葉桜の根元静かな影ふたつ

庭の石漬物石と変り果て

顔馴じみ健康点呼みんなこ家

三光

満開の桜の下でハイチーズ

絵手紙に懐かし母校の桜咲き

一筋の農魂語る部厚い手

ユーモア

思い出すオール一、二、の通信簿



綾女

実

旭

てい子

堤子

孝

てい子

綾女

実

互選

五客

伊藤綾女 選

客 一言で語りつくせぬ人生句

無人駅一輪挿しに梅薫る

桜の花思いだしますなき父母

柏手のひびき寒気の杜に消え

懐メロを聞けば若さが胸に染む

三光

一つより二つの笑顔に満ちる幸

絵手紙に懐かし母校の桜咲き

一は礼母が説いたる道しるべ

ユーモア

初夢で体重がヘリスマートに

孝

吉郎

清美

月歩

孝

月歩

てい子

祥子

清美

互選

五客

梅沢旭 選

客 手作りの味噌一番と腕ふるい

ハクチョウに土産一つを持たせたい

乱れ散る桜吹雪は子もうれし

人情の種は綺麗な花咲かす

笑い種あつめて今日も川柳会

三光

有りのまま生きていきたい飾らずに

心に余裕謙虚な笑顔美しい

校門の桜未来の子を送り

ユーモア

愛込めてきざむレシピが踊り出す

てい子

和市

照美

綾女

吉郎

祥子

綾女

綾女

祥子

互選

五客

岩野祥子 選

客 一粒を祖母は種蒔く万倍日

一筋の農魂語る部厚い手

一つより二つの笑顔に満ちる幸

未来へとこの子見守る桜の木

人情の種は綺麗な花咲かす

三光

杭一本冬を乗り切る立役者

一言で語りつくせぬ人生句

己惚もホラもなかった山桜

ユーモア

踊の輪抜けて出店を一まわり



綾女

月歩

てい子

綾女

てい子

孝

旭

旭

吉郎

互選

五客

木村堤子選

客 後悔が残るいつもの一眠り

一味ふり日々に少しのかくし味

桜見る会が駄目なら桃にする

パツと散る桜の毎く女道

ダイエット修正画像に酔いしれる

三光

人 まっさらな希望載せたるカレンダー

地 お歳暮が化粧直して年賀来る

天 一輪を活けると生きてくる書院

ユーモア

初夢で体重がヘリスマートに

互選

五客

住吉吉郎選

客 匿名の電話でだますサギグループ

うちとけてささやか心の通じ合い

パツと散る桜の毎く女道

一筋の農魂語る部厚い手

茶会席一期一会のおもてなし

三光

人 湯の宿で夜桜ながめ一人酒

地 杭一本冬を乗り切る立役者

天 閃きと捻り出してのこの一句

ユーモア

庭の石漬物石と変り果て



和市

旭

祥子

綾女

堤子

和市

てい子

堤子

てい子

互選

五客

鈴木孝選

客 一輪を活けると生きてくる書院

頑張った君の努力に桜咲く

満開の桜の下にランドセル

病院の窓から見えるさくらきれ

今日の酒少しシヨッパイおたち酒

三光

人 もう一度チェックにはまる古日記

桜漬け孫の祝いに花を添え

地 笑い声嫁と姑の台所

ユーモア

初夢で体重がヘリスマートに

月歩

実

和市

清美

実

旭

実

吉郎

清美

互選

五客

佐野和市選

客 一味ふり日々に少しのかくし味

校門の桜未来の子を送り

頑張った君の努力に桜咲く

顔馴じみ健康点呼みんなこ家

笑い種あつめて今日も川柳会

三光

人 一年のいのちを貰う大晦日

庭の石漬物石と変り果て

地 大トリの桜吹雪に染まる唄

ユーモア

愛込めてきざむレシピが踊り出す



祥子

綾女

実

堤子

吉郎

吉郎

てい子

堤子

祥子

互選

五客

北原実選

客

一筋の農魂語る部厚い手
己惚もホラもなかつた山桜
凜とした姿美し桜皮細工
柏手のひびき寒気の杜に消え
登山道風と緑の会話聴く

三光

人

桜見会疑問符残してお見送り
一、二の三を合図に喝を入れ
杭一本冬を乗り切る立役者

ユーモア

庭の石漬物石と変り果て

綾女

旭

照美

月歩

孝

堤子

月歩

てい子

てい子

互選

五客

川崎てい子選

客

一輪を活けると生きてくる書院
葉桜の根元静かな影ふたつ
凜とした姿美し桜皮細工
大トリの桜吹雪に染まる唄
笑い種あつめて今日も川柳会

三光

人

静いも香る朝茶が消してゆく
人情の種は綺麗な花咲かす
一は礼母が説いたる道しるべ

ユーモア

小正月ほったらかしの二重あご



月歩

旭

照美

堤子

吉郎

旭

綾女

祥子

月歩

互選

五客

山口照美選

客

一つより二つの笑顔に満ちる幸
葉桜の根元静かな影ふたつ
まっさらな希望載せたるカレンダー
有りのまま生きていきたい飾らずに
うちとけてささやか心の通じ合い旭

三光

人

未来へとこの子見守る桜の木
心に余裕謙虚な笑顔美しい
一は礼母が説いたる道しるべ

ユーモア

小正月ほったらかしの二重あご

月歩

旭

祥子

祥子

てい子

綾女

祥子

月歩



選者選の部（一般・会員）

熊野昌昭教育長 選

秀 逸

一輪を活けると生きてくる書院
一言で語りつくせぬ人生句
一に愛二に愛うまい米作り
手作りの味噌一番と腕ふるい
無人駅一輪挿しに梅薫る
初節句一升餅が歩き出す
絵手紙に懐かし母校の桜咲き
桜漬け孫の祝いに花を添え
湯の宿で夜桜ながめ一人酒
桜散る風のタクトで踊ってる
嫁ぐ娘の祝いの酒に桜色
柏手のひびき寒気の杜に消え
登山道風と緑の会話聴く
改革で更に定年遠くなり
お正月指折かぞえ孫を待つ
孫巢立ち爺婆手隙の趣味三昧
ダイエット修正画像に酔いしれる



月歩 綾女 孝 吉郎 善之 実 和夫 善之 月歩 孝 善之 トヨ子 堤子 照美

五 客

一筋の農魂語る部厚い手
己惚もホラもなかった山桜
諍いも香る朝茶が消してゆく
ハクチョウに土産一つを持たせたい
一粒を祖母は種蒔く万倍日

綾女 旭 旭 和市 実

三 光

人位 ごたごたを起さず観てと桜花
地位 一は礼母が説いたる道しる
天位 桜見る会が駄目なら桃にする

洋一 祥子 月歩

ユーモア句

雪降りて猫と一緒にこたつむり
狂い咲きいつも咲いてる我が頭
人生の重荷体重思い知る

善之 達雄 旭



青木土筆坊 選

秀 逸

一言で語りつくせぬ人生句
一杯の至福のコップに感謝する
元日の朝湯朝酒至福なり
一筋の農魂語る部厚い手
世界一競う五輪の晴舞台
初節句一升餅が歩き出す
お受験を死力尽くしてサクラ咲く
君想う桜の下で歌を詠み
樹木葬好きで桜の木を残す
出てこぬか桜吹雪の金さんが
嫁ぐ娘の祝いの酒に桜色
運命の危機を感じる温暖化
杭一本冬を乗り切る立役者
懐メロを聞けば若さが胸に染む
厳冬の桜の幹に惚れ直す
いじめ合う教師の躰誰がする
もったいない言葉も物と捨てる今



孝 孝
堤 子
綾 女
洋 一
善 之
堤 子
てい 子
月 歩
達 雄
善 之
和 市
てい 子
孝
てい 子
洋 一
洋 一

五 客

老夫婦我慢で丸い四世代
静いも香る朝茶が消してゆく
己惚もホラもなかった山桜
平均という一線に策を練る
大トリの桜吹雪に染まる唄

三 光

人位 人情の種は綺麗な花咲かす
地位 一つより二つの笑顔に満ちる幸
天位 愛込めてきざむレシピが踊り出す

ユーモア句

春一番滑稽技をかけてみる
桜見る会が駄目なら桃にする
百円を惜しみラーメン普通盛り



洋 一
旭 旭
和 市
堤 子
綾 女
月 歩
祥 子
旭
月 歩
善 之

太田祐子 選

秀 逸

一杯の至福のコップに感謝する
 一筋の農魂語る部厚い手
 閃きと捻り出してのこの一句
 一期一会互いに見てる流れ星
 一折り二折り紙鶴飛ばす退院日
 一つより二つの笑顔に満ちる幸
 己惚もホラもなかった山桜
 校門の桜未来の子を送り
 咲いて愛され桜吹雪も又綺麗
 桜漬け孫の祝いに花を添え
 嫁ぐ娘の祝いの酒に桜色
 諍いも香る朝茶が消してゆく
 人情の種は綺麗な花咲かす
 愛込めてきざむレシピが踊り出す
 老夫婦我慢で丸い四世代
 改革で更に定年遠くなり
 もったいない言葉も物と捨てる今



孝 綾女 堤子 吉郎 綾女 月歩 旭 綾女 綾女 実 善之 旭 綾女 祥子 洋一 善之 洋一

五 客

一輪を活けると生きてくる書院
 平均という一線に策を練る
 大トリの桜吹雪に染まる唄
 ごたごたを起さず観てと桜花
 桜散る風のタクトで踊ってる

三 光

人位 一に愛二に愛うまい米作り
 地位 初節句一升餅が歩き出す
 天位 限界を意識自戒の風を吸う



月歩 和市 堤子 洋一 秀夫 綾女 善之 綾女

☆会員互選結果（十二名により）

一位 川崎てい子（四十五点）
二位 岩野祥子（四十四点）
三位 志田月歩（四十四点）

☆一般会員合同選者選結果（三名により）

一位 伊藤綾女（十八点）
二位 志田月歩（十三点）
三位 梅沢 旭（十二点）

☆総合成績

優勝 伊藤綾女（五十九点）
準優勝 志田月歩（五十七点）
第三位 岩野祥子（五十一點）

